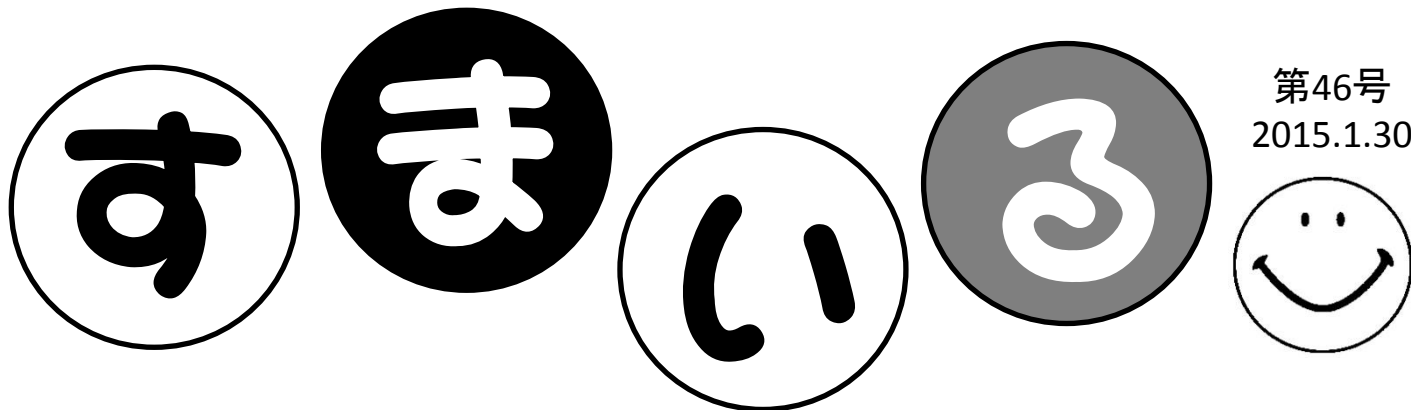


板橋区子育て支援者通信誌



第46号
2015.1.30



今年もよろしくお願いたします



特集

～平成26年2級スキルアップ講座レポート～

気になる子どもへの理解と関わりかた ----- P2

すまいるガイド 子育て支援に役立つ情報をお届けします ①
楽しい室内あそび『お手玉』 ----- P5

すまいるガイド 子育て支援に役立つ情報をお届けします ② ----- P6
花粉症対策

サポステからのお知らせです～
子育て支援者活動サポートステーション登録者アンケートへの ----- P7
ご協力ありがとうございました!!

サポステからのお知らせ
引っ越しなどで連絡先の変更がありましたら、ご連絡ください!! ----- P7
ボランティア保険に加入しましょう/サポステからの情報がメールで届きます

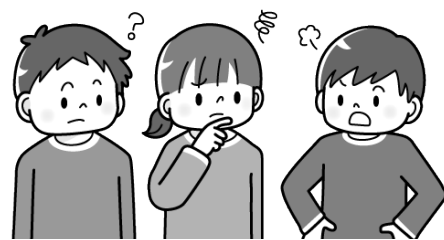
サポステ研修会のお知らせ
『支援が必要な子どもたちの日常から考える子育て支援』 ----- P8

サポステ研修会があります!! 2月10日(火)13:30～

『支援が必要な子どもたちの日常から考える子育て支援』

くわしくは、8ページをごらんください

気になる子どもへの 理解と関わりかた



1月10日(土)、板橋区立グリーンホール2階ホールにて、2級修了者を対象としたスキルアップ講座が開催されました。講座名は『気になる子どもへの理解と関わりかた』。講師はこども教育宝仙大学こども教育学部教授の松原豊先生です。

『発達障がい』という言葉は、かなり知られるようになりましたが、日ごろから、さまざまな子どもたちに接している子育て支援者のみなさんにとって、理解を深めることはとても大切です。松原先生のお話の中から、とくに、発達障がいの特性と、支援の基本についてまとめてみました。

☺ 通常学級で支援が必要な子どもの割合は1クラスに約2人

何らかの障がいがあるために、通常学級ではその能力を十分に伸ばすことが困難な子どもたちについては、子どもの障がいの種類や程度に応じて、特別な配慮の下に、特別支援学校や小・中学校の特別支援学級、あるいは通級による指導において適切な教育が行われています。文部科学省の調査によると、こういった特別な支援・指導を受けている子どもは全体の約2.7%(平成23年)となっています。一方で、通常の学級にしながら、学習・生活面で特別な教育的支援を必要とする生徒は約6.5%(平成24年)程度の割合で在籍している可能性を示しています。つまり35人学級の場合でいうと2人の子どもが、何らかの支援が必要な子どもであるということになります。

☺ 『困った子』ではなく『困っている子』なのです

発達障がいとは、生来の発達の道筋の乱れにより、知的能力の遅れ、偏り、歪みをきたすことをいいます。さまざまな要因が考えられますが、大きくは生物学的要因(脳の機能がうまく働いていないこと)によるものです。

発達障がいについてはこの10年ほどで理解が広まり、知られるようになりましたが、注意したいのは、何でもかんでも発達障がいにしてしまう傾向があることです。発達障がいそのものにはあまり意味がなく、その子が困っているかいないかという部分に焦点をあて、どう支援できるのか考えることが大切なのです。

気になる子の中には、社会性が乏しい、注意欠如や指示に従えない、集団行動が難しい、などのような親や教師を手こずらせるケースが多いため、「困った子」として扱われてしまいがちですが、実は彼らは「困っている子」なのです。レッテルを張らずに、発達障がいがある可能性も考慮することが大切です。

(気になる子ども)

- 何度繰り返しても理解しない子
- 逐字読みであったり、読むのをいやがる子
- 何度言ってもていねいに仕事ができない子
- 机の周りがいっこうに片付かない子
- 注意した次の瞬間には同じことを繰り返してしまう子
- 指示の細かいところを聞きもらす子
- じっとしてられない子
- けんかの理由を聞いても答えられない子
- すぐに固まってしまう子
- 何に関してもまず「いやだ」という子

😊 障がいの特性

発達障がいは、特性によって分類されていますが、専門家でも正確に診断することが難しいと言われていています。発達障がいの認めにくさの原因として、障がいと併存していることが多いこと、障がいと非障がいとの境目がつきにくいこと、環境との関係があること、年齢による変化があること、養育環境や情緒的な問題などによる不適応との混同があること、などがあります。

発達障がいが見落とされることにより、最も問題になることとして「自尊心が損なわれる」ことを、私たちは知っておくことが大切です。子どもたちは、想像以上に傷ついています。また、周囲の理解が得られず、不適切な対応が生じるために、二次的障がいが見れることがあります。主な二次的障がいとして、チック(まばたき、頬しかめ、腕、貧乏ゆすり、音声、咳など)や、特異な習癖(抜毛癖や、爪かみ、性器いじりなど)や、身体症状(無気力、イライラ、不機嫌、うつ、頭痛、腹痛、心因性難聴など)があります。ストレスの継続により、登校しぶりや不登校が起こると、昼夜逆転、赤ちゃん返り、無気力、暴力など不健全な生活習慣が助長されてしまいます。強い叱責が続くことなど虐待のような対応により、解離症状が起きることもあります(白日夢、健忘、フラッシュバック)。AD/HDやアスペルガー症候群では、叱られすぎにより、反抗挑戦性障がいから、行為障がい(非行)になる場合もあります。

どのような場合でも、困難を抱える子どもに対する理解の欠如によって起こるものなので、周りの人たちが理解し、適切な対応することで、軽減することができるのです。実際には、障がいの特性より、子どものニーズをもとに支援が開始されます。子どものニーズとは学習上、生活上の困難や悩みのことです。ただし、困難の背景を考える上で、障がいの特性を知ることは大切です。

😊 基本は、子どもを認め、分かりやすく伝えること

発達障がい児支援の基本は、まず、脳の働き具合が違うことをしっかり理解することです。わざとやっているわ

(障がいの特性)

- 知的障がい — 知能指数70以下、境界知能(ボーダー) — 知能指数70~80
 - ・知的発達の遅れ、理解の問題、情報処理過程・記憶の問題、学習不振、自己表現の苦手さ など。

※発達障がいは以下の□枠内のみ、その他は発達障がいと混同されやすい障がい

- LD(限局性学習症)
 - ・認知の偏り、情報処理過程のアンバランス、話す・聞く・読む・書く・計算する・推論することのうち、1つあるいは複数のことが極端に苦手。
- AD/HD：注意欠如・多動症
 - ・不注意、衝動性、多動性、自己モニタリングの弱さ
- ASD：自閉スペクトラム症(広汎性発達障がい、高機能自閉症、アスペルガー症候群)
 - ・社会性やコミュニケーションの障がい、切り替えの悪さ、こだわり、感覚過敏、相手の立場に自分を置き変えることが難しい
- DCD：発達性協調運動症
 - ・微細運動、粗大運動、運動の不器用さ
- 情緒障がい
 - ・選択性緘黙(場面緘黙)、不登校
- 被虐待による障がい
 - ・反応性愛着障がい、注意喚起行動、解離症状
- その他、心身機能や健康状態
 - ナルコレプシー、起立性調節障がい、脆弱性、身体障がい、てんかんなど

けではない、やろうとしてもできないことを共通理解とすることです。また、発達障がい児にとって具体的な方法を示してもらえない叱責や励ましはつらい言葉となります(例:「みんなができているんだから」「だめでしょ」「がんばればできる」「よく注意しなさい」など)。能力に凸凹がありますが、まず得意なところに着目し、その能力を活かすようにして、徐々に苦手なところを克服していきます。抽象的な表現(「ちゃんと」「きちんと」など)を避け、できるだけ具体的に言うことが大切です(例:「変な服の着方をするな」ではなく、「シャツを着たら上から順番にボタンをかけて、シャツのすそをズボンの中にきちんと入れなさい」という)。図や絵を用いた視覚的支援は有効です(例:手順を紙に書いたものを掲示する。写真を使って、状態を具体的に理解できるようにする、など)。また、子どもの行動について、わざとやるのか否かを見極めることも大切です。自分で判断して動けない子、何をやったらいいかわからない子どもに対しては、やって欲しいことを、より具体的に話します。そして、どうしても守らせるべきことは『叱らないけど譲らない』ことが大切です。「今回だけ特別ね」という例外は、あまり作らないほうが良いです。環境の調整は刺激からの調整でもあるので、刺激になる物や人から離すようにします。子どもの成長とともに、自身の特性の自己理解と、周囲の子どもが発達障がい児をどう理解するかがポイントとなってきます。すべてにおいて、担当者(支援者)は、一人で抱えこまずに、組織全体で対応することと対応が一貫していることが大切です。そのため必要な情報は共有します。

😊 発達障がい児に有効なペアレントトレーニング

ペアレントトレーニングは、発達障がいの子どもの持つ親のための、子育ての仕方を学ぶためのトレーニングです。適切な接し方を学ぶことにより、行動の改善や子どもが感じている困難の軽減につながります。

ペアレントトレーニングを簡単にまとめてみました。まず、『行動の分類』です。子どもの行動を「してほしい(続けさせたい)行動」「してほしくない(減らしたい)行動」「止めさせたい(許しがたい)行動」の3つに分類します。これらの行動に対して、具体的にどのように対応したらよいかを学びます。

対応の基本は「よい行動に注目する」ことです。不適切な行動を叱ることで、逆にその行動が増すこともあります。「してほしくない行動」は、時によって「無視することとほめること」を組み合わせ対応します。そのため「上手なほめかた」「上手な無視の仕方」「上手な指示の出し方」などを学びます。



熱心に耳をかたむける受講者のみなさん

😊 周りの理解で子どもは救われます

発達障がいという言葉で、子どもを縛るのではなく、「困っている子」が「何に困っているのか」について検討することが大切です。一人ひとりに個性があるように、子どもが自分自身を認められるには、周囲の理解が大きく関係していることが分かりました。講座は限られた時間でしたが、とても有意義な内容で、勉強になりました。子育て支援者のみなさんも、さまざまなお子さんと関わっていますが、子どもたちを「○○○な子」と決めつけるのではなく、子ども自身が抱えている問題をまずは理解しようとするのが、大切だと感じました。

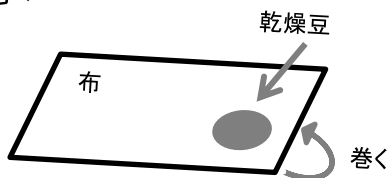
冬は日照時間が短く、室内で過ごすことが多い季節ですが、部屋の中でも楽しめる室内あそびで、寒さを吹き飛ばしてしまいましょう!! 簡単に楽しめて、子どもたちに人気の『お手玉』をご紹介します。



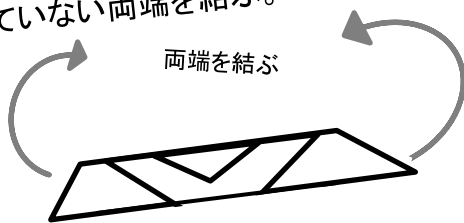
ハンカチお手玉のつくりかた

- 用意するもの
 - ・布(ハンカチ または バンダナ)
 - ・小豆(または乾燥した豆) 40~50g

① 布を広げて、1か所の角に適量の豆を置き、くるくると巻くようにして包む。



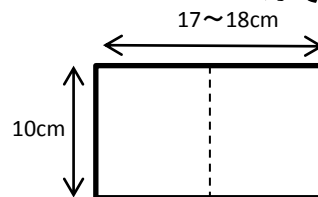
② 巻いていない両端を結ぶ。



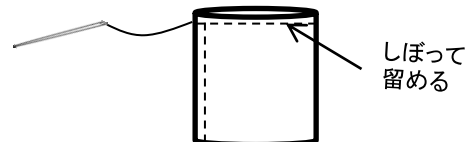
俵型お手玉のつくりかた

- 用意するもの
 - ・タテ10センチ、ヨコ17~18センチの布
 - ・小豆(または乾燥した豆) 40~50g

① 布は中表にして点線の部分で二つに折る。



② 5ミリの縫いしろでタテを縫い、ヨコはぐし縫いし、ギュッとしぼってとめる。



③ 表に反して、入り口のほうをぐるりと縫い、豆を入れてから、糸を引いて、口をしめる。ぬいしろを内側へ入れて、糸をとめる。

お手玉あそびの いろいろな楽しみ方

◆手の甲にお手玉を乗せて弾ませる◆

歌いながら、リズムに合わせて弾ませましょう。最後まで、落とさないで出来るかな?!

◆両手1個◆

お手玉を右手に持って投げ上げて、落ちてきたお手玉を左手で受けます。うまく出来るようになったら、テンポよく繰り返します。

◆からだを使ったお手玉あそび◆

立って、お手玉を頭上に放り投げ、その間に背中にまわした手で受け止めます。そのつぎに、背中から上に投げ上げて、からだの前で受け止めます。けっこう難しくて集中力が必要です!

ほかにも、お手玉があれば、いろいろな遊びやゲームで楽しめます。お子さんと一緒に楽しんでみてはいかがでしょうか。

花粉症はいまや大人の悩みだけではありません。子どもの花粉症は年ごとに増えていて、花粉症を発症する年齢は、どんどん低年齢化しています。日本気象協会によると、2015年春の花粉飛散予測では、例年より早く花粉が飛び始め、前年(2014年)の花粉の飛散数が少なかった北陸・関東甲信・東北地方では、2015年春の飛散数は前年の2~3倍になると予測されています。

親が花粉症であると、子どもも発症しやすいといわれており、とくに、母親の影響が強いというデータが出ています。両親とも発症していない場合は子どもが発症する年齢は学童期以降となる傾向にあります。

子どもの花粉症は、もともと何らかのアレルギーを持っている場合(ダニやハウスダストなど)や、喘息、アトピー性皮膚炎などの疾患に合併して起こる場合が多いので、とくに注意したほうが良いでしょう。



クシャミ、鼻水、鼻づまり、目の痒みなどだけでなく、目や鼻をよくいじったり、鼻を奇妙に動かしたり、顔をしかめるなど子どもに特徴的なしぐさがあります。子どもは鼻づまりが多く、いびきや口で呼吸する、鼻水は鼻すすり、目の痒み、目の周りが赤く腫れるなどの症状があります。子どもの場合は、長い期間にわたって花粉症に苦しむばかりか、集中力の低下や睡眠不足など学校生活や学業の低下に影響を及ぼすので、対処が必要です。

～ご家庭で実践できる花粉症対策～

- マスク(花粉対策用メガネ)をする
- 外出時には帽子をかぶる
- 外出から戻ったら、うがい・手洗い(洗顔も)するとよい
- 目や鼻を洗う
- 意識的に目を休める(テレビやPC・ケータイ・スマホで酷使しない)
- 加湿・保湿に心がける
- 目が痒い時は、冷たいタオルで冷やす
- 鼻をかみすぎて荒れたら、ワセリンで保護する



節分を越えると、日ごとに春を感じられるようになります。春の訪れを楽しめるように、日ごろから花粉症対策に心がけることは大切です。ただし、症状が気になる場合は、早めに医師に相談することをおすすめします。

～サポステからのお知らせです～

子育て支援者活動サポートステーション登録者アンケート へのご協力ありがとうございました!!

前号の情報誌『すまいる』(45号)の発送に合わせて、子育て支援者活動サポートステーション登録者アンケートのご協力をお願いしました。(すまいるの送付をご辞退された方には、アンケートのみ送付しました。)

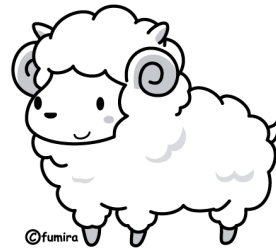
アンケート項目は多岐にわたっており、お手数をおかけいたしました。たくさんの方からの返信があり感謝しております。ありがとうございます。皆さまからいただいた貴重なご意見は、板橋区の子育て支援の向上のために活用させていただきます。集計結果はすまいるで報告させていただきます。

なお、アンケートにかかわる個人情報につきましては、厳重に管理し、アンケート集計においては個人情報を含まません。2015年1月時点で、アンケート集計が完了しておりませんので、アンケートに、すまいるの送付について「不要」とお答えした方には、今回のすまいるが送付されてしまいますことをご了承ください。

引っ越しなどで連絡先の変更がありましたら、ご連絡ください!!

情報誌『すまいる』は、子育て支援者養成講座を修了された方が、登録時に記載してくださった連絡先に送付しています。転居などでご住所が変わった方に、お届けすることができなくなってしまいますので、ご住所など、連絡先を変更された場合は、サポステまでご連絡ください。

また、子育て支援者の登録の削除をご希望される場合も、ご連絡をお願いいたします。(サポステ、または、子ども家庭支援センターでも、受け付けております。)



ご希望の方に

サポステからの情報が メールで届きます!!

ご希望の方に、メールで

- ・「すまいる」発行のお知らせ
- ・ホームページ更新のお知らせ
- ・イベント情報などを、送信させていただきます。

ご希望の方は 受信を希望するメールをご使用いただき、

件名:サポステ情報送信希望

本文:お名前、修了課程(3級または2級)、
(お分かりになる方は)登録番号

をご記入のうえ、

info@saposute.info

まで、メールを送信してください。(ケータイメールの方は受信設定をご確認ください)

ボランティア保険に 加入しましょう

ボランティア保険は、子育て支援だけでなくすべてのボランティア活動に対して保障される保険です。保険期間は、4月1日0時～翌年3月31日24時までの1年間。いつからでもご加入できます。ボランティアをはじめめる前に、入っておきたいあなたの大切な「お守り」になる保険です。ぜひ加入しましょう!!

保険料は基本的なプランで300円～

お問い合わせ、お申し込みは「いたばし総合ボランティアセンター」まで。

*いたばし総合ボランティアセンター
住所:本町24-1
電話:03-5944-4601

ぜひ
ご参加ください

サポステ研修会のお知らせ

サポステ研修会

『支援が必要な子どもたちの日常から考える子育て支援』

講師：社会福祉法人 マハヤナ学園撫子園 ファミリー ソーシャルワーカー 酒井 寛 さん

とき：2015年2月10日 火曜日

13時30分(13時15分開場)～15時30分

場所：板橋区立グリーンホール 403会議室

※参加される方は、直接会場へお越しください。

サポステ（子育て支援者活動サポートステーション）では、子育て支援者のみなさんのスキルアップを目的とした研修会を開催しています。今回のテーマは、『支援が必要な子どもたちの日常から考える子育て支援』です。板橋区前野町にある児童養護施設である社会福祉法人 マハヤナ学園撫子園でファミリー ソーシャルワーカーとして、子どもたちの支援に携わっていらっしゃる酒井さんから貴重なお話をうかがいます。マハヤナ学園撫子園は、保護者の入院、虐待、家庭環境不適當、両親の離婚、家出、ひとり親家庭での教育困難などの様々な理由により、子どもたちは心に大きな傷を持ったまま入所してきます。

支援が必要な子どもたちの日常から子育て支援の可能性を考えてみます。

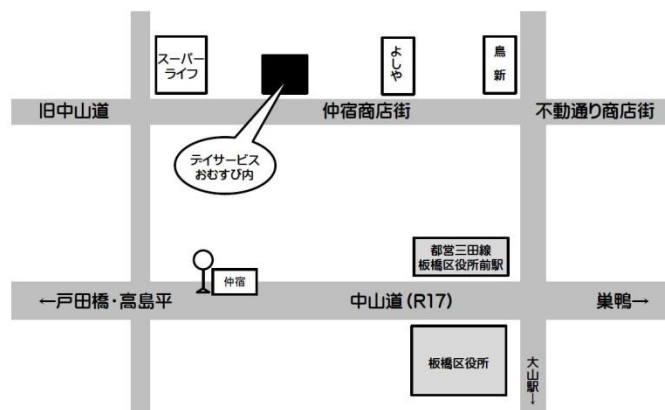
発行 子育て支援者活動サポートステーション (NPO法人ボランティア・市民活動学習推進センターいいたばし)

〒173-0005 東京都板橋区仲宿45-6
デイサービスおむすび内

ホームページ <http://www.saposute.info>

メールアドレス info@saposute.info

TEL & FAX 03-5943-1888



編集後記

2015年が始まりました。今年もよろしくお願い申し上げます!!

日本海側は記録的な大雪で、テレビのニュースでは真っ白な世界が映し出されています。一昨年、スキーをするために上越地方へ行きましたが、その時も大雪で、雪で視界を失い、スキーどころではありませんでした。どんよりとした空から、止まることなく舞い落ちる雪の恐ろしさを初めて体験し、雪国に住む方々のご苦労を思うと、『雪やこんこ♪』という気分にはなれません…。東京地方も、雪が降るのはこれから。昨年はドカ雪が降りました。積雪対応用ブーツを買って用心しています。(編集担当:岡本・野邊)